

あけぼのつうしん



2022年12月1日発行

No.81

〔目次〕

■ 注目！ notable case ～道内図書館（室）トピックス～ 1
○ 雄武町図書館 ビーチコーミング in 雄武	
○ 芽室町図書館 好評！大人向け講座	
○ 根室市図書館 等身大人形劇「劇団バク」公演	
○ 上士幌町図書館 懐かしの校歌を CD で再現	
○ ニセコ町学習交流センター 趣味の作品展示 開催中！	
○ 市立留萌図書館 関心をひく地元ネタ「ふむふむのコーナー」	
○ 松前町立図書館 図書館へのアクセスポイント「郵便局図書コーナー」	
■ 特集 キーワードは連携・共同 6
○ オホーツク管内公共図書館協議会遠紋ブロック共同事業「夏休み 鉄道展」	
○ 繋がる・繋ぐ図書館の輪～ゾロリが図書館にやってきた！ (図書館リレー展示 小樽→滝川→栗山→苫小牧)	
○ 小さな町同士で繋がる (北空知3町 一秩父別町・北竜町・沼田町 合同司書会)	
○ なかそら net 紹介 (なかそらち図書館ネットワーク)	
■ 令和4年度全道図書館新任職員研修会報告 11
■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート 12
【運営相談・派遣】 広尾町立図書館「読みたい本がすぐ見つかるように」	
【運営相談・派遣】 幌加内町 絵本の読み聞かせ講座	
【学校図書館運営相談】 児童・生徒が集まる学校図書館の環境づくり	
■ 道内図書館キャラクター紹介！ Vol.4 15
美幌町図書館 & 根室市図書館	
■ お知らせ 16
○ 滝川市立図書館発「一緒に取り組んでみませんか？～BOOKセラピー～」	
○ 電子図書館の導入数は13市町	
○ 学校図書館担当職員講習が終了（北海道教育庁社会教育課）	
■ 編集後記 19



北海道立図書館

■注目！ notable case ～道内図書館(室)トピックス～

Case1 ビーチコーミング in 雄武

雄武町図書館



日 程

令和4年10月9日(日)

- 10:00 図書館集合 ビーチコーミングについて解説(スライド)
- 10:20 現地移動(公用車2台) 栄丘地区海岸
- 10:30 現地着 ビーチコーミング開始
- 11:20 図書館に移動
- 11:30 図書館着 お披露目、調査・発表
- 12:00 解散

ビーチコーミングとは？ ビーチ(砂浜)をコーム(くし)でとくように、海岸の漂着物を拾い集めることをいいます。海岸には様々な漂着物があります。漂着物の正体や、どこから来たかななどを考えます。

雄武町図書館では、小学4年生から一般の方を対象に北海道立流氷科学センターから学芸員を講師に招き、ビーチコーミングを開催しました。

実際に海岸で漂着物を拾い集めた参加者は、図書館に戻りお互いの成果を披露し合いました。

集められた漂着物は、貝殻、動物の骨、空き瓶など多岐にわたり、各々について学芸員から解説を受けました。外国から流れ着いたものについては、製作された国の調べ方も学びました。

参加者からは、「海は身近なものですが、未知のことが多く学びが多かった。」「またこういう体験をしてみたい。」「普段は気づかないものをみつけられた。」などの感想が寄せられ好評のうちに幕を閉じました。

(情報提供：雄武町図書館 櫻井 輝久)



参考：漂着物学会 HP <https://drift-japan.net/>

Case2 好評！大人向け講座

芽室町図書館



芽室町図書館では、子どもを対象とした事業だけでなく、一般の方をターゲットにした「大人向け」の事業をいくつも展開しています。今年度は「朗読講座」、「朗読サークルこずえの会大人向けミニお話会」、「本の装備講座」、「大人の手芸講座」、「めむろ歴史講座」、コロナ禍以前は、図書館から飛び出した出張講座として、「ばんえい競馬見学会」、「警察署(帯広警察署新庁舎)見学」、「裁判所(帯広市)見学」などなど。講師は各分野の専門家のほか、図書館職員やボランティアサークルの方も務めています。

今後も図書館未利用の「大人」(特にシニア層)を意識し、地元の歴史を振り返る講座やあまり図書館では扱わない分野についても柔軟なアイデアで企画し、担当する図書館職員も楽しく取り組めるような事業を積極的に展開したいと考えています。

(情報提供：芽室町図書館 藤澤 英樹)

Case3 等身大人形劇「劇団バク」公演

根室市図書館

根室市図書館では、平成30年度より読書の楽しさや季節の楽しみ、そして図書館に親しみを持ってもらうため、「劇団バク」をお招きし、等身大による人形劇公演を開催しています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による混雑緩和のため、事前申込みによる午前・午後の2部制で行い、109名の参加がありました。

昨年度の日程等	
令和3年11月7日(日)	
日時	①午前の部：11:00～12:00 ②午後の部：14:00～15:00
場所	根室市図書館 2階集會室
参加者	109名
プログラム	「劇団バク人形劇公演」 ①手遊び「おやさいさん」 ②歌 「バナナのおやこ」 ③等身大人形劇「ねずみの嫁入り」 ④お別れの歌 「グッバイ」 ※ 午前・午後同プログラム

人形劇が始まると会場は一気に劇団バクの世界に引き込まれ、コミカルな歌や踊りとともに会場は大盛り上がりし、子どもたちからたくさんの笑顔が弾けていました。

今年度も「こどものつどい(子どもブックライフ応援事業)」として、「劇団バク」の公演を開催します。

参考：劇団バクのHP <https://gekidan-baku.com/>



▲R3年度の様子



(情報提供：根室市図書館 大坂屋 舞衣子)

Case4 懐かしの校歌をCDで再現

上士幌町図書館

上士幌町図書館では、これまでに閉校した町内の小学校校歌10校分をCD化しました。CD化にあたっては、町内小学校の先生がピアノ伴奏用の楽譜を作成して演奏したものを使用しています。上士幌町では最大で12校あった小学校も、令和2年3月の糠平小閉校で、上士幌小1校となったそうです。これらのCDは町内の学校に配付し、図書館内でも試聴できます。



YouTube

また、YouTubeでも「上士幌懐かしの小学校校歌」として、鎌田博文氏による校歌絵、菅野孝雄氏による校舎画とともに楽しめます。

館内では、校歌絵や校歌画を掲示するとともに楽譜や各学校の記念誌を並べ、展示「上士幌懐かしの小学校校歌」を開催しました。来館者からは、「譜面がほしい」「同窓会で弾いてみたい」との声も多数寄せられました。



展示「上士幌懐かしの小学校校歌」

(情報提供：上士幌町図書館 橋本 香奈代)

Case5 趣味の作品展示 開催中！ ニセコ町学習交流センター



11月前半に開催した「手芸」の作品展示

ニセコ町学習交流センター「あそぶっく」では、住民の皆さんが「趣味の作品」をキーワードに自由な発想で利用できる展示スペースを館内に設けています。

それぞれの展示期間は2週間（2企画/月）、出展者は声かけをしたり、推薦や当人からの申し出を受けて年間計画を立てます。

はじめは、2004年11月からで20年近く継続しています。当初は、予算をかけずに自分たちでできることは何か、と試行錯誤の中から図書館としての交流機能や住民の皆さんとのつながりを意識した企画としてスタートしています。

2022年度「趣味の作品展示」年間計画

月	展示期間		作品名
4	4月1日 金	～ 4月14日 木	写真
	4月15日 金	～ 4月30日 土	手芸
5	5月1日 日	～ 5月21日 土	トールペイント
	5月22日 日	～ 5月31日 火	生け花
6	6月1日 水	～ 6月14日 火	絵手紙
	6月15日 水	～ 6月30日 木	陶芸
7	7月1日 金	～ 7月15日 金	俳句
	7月16日 土	～ 7月31日 日	絵画
8	8月2日 火	～ 8月7日 日	生け花
	8月9日 火	～ 8月31日 水	押し花
9	9月1日 木	～ 9月13日 火	「銀の針」作品展
	9月14日 水	～ 9月29日 木	手芸
10	10月1日 土	～ 10月15日 土	アクセサリー
	10月16日 日	～ 10月30日 日	写真
11	11月1日 火	～ 11月13日 日	手芸
	11月15日 火	～ 11月30日 水	陶芸
12	12月1日 木	～ 12月14日 水	石ケンと編み小物
	12月15日 木	～ 12月29日 木	クラフトかご
1	1月6日 金	～ 1月18日 水	水彩画
	1月19日 木	～ 1月31日 火	「生活の家」作品展
2	2月1日 水	～ 2月14日 火	木彫り
	2月15日 水	～ 2月28日 火	手芸
3	3月1日 水	～ 3月14日 火	写真
	3月15日 水	～ 3月30日 木	ヒンメリ（麦細工）

近年は、住民の皆さんにも定着し、毎年のようにご自身の作品展示を希望される常連の方や、この展示に向けて作品を制作している方もいます。制作する楽しみだけでなく、展示することで人に見てもらおう喜びのようなものを皆さんが楽しんでおられます。普段、図書館を利用しない方も、友人知人の作品を見に「あそぶっく」に足を運んでくださいます。

今後もつながりを大切に継続したい図書館事業のひとつです。

（情報提供：ニセコ町学習交流センター 小坂 みゆき）



Case 6 関心をひく地元ネタ「ふむふむのコーナー」 市立留萌図書館

市立留萌図書館では、児童コーナーの壁面に「ふむふむのコーナー」を設け、展示しています。壁面の有効活用のため、子ども向けにいろいろな切り口で“地元ネタ”を掲示しています。

《これまでの展示》

第1回：「るもいのいきものたち」（令和2年7～12月）

留萌に生息する生き物と「黄金岬」のニシン群来の様子を紹介。

第2回：「るもいの小学校」（令和3年1～7月）

明治から現在までの小学校の変遷を地図や年表にまとめ、各学校の新旧校舎や児童数の推移をグラフ化し地図上に表現。

第3回：「るもいの気温」（令和3年8月～令和4年7月）

留萌の気温の推移をグラフで示し、「風が強く、平均気温が高い」といった特徴や最高・最低気温のベスト5をそれぞれ展示。

第4回：「防災とるもい」（令和4年7月～現在）

津波・洪水時の防災マップなど防災に役立つ情報を掲示するほか、留萌川氾濫を中心に留萌市で起こった災害を紹介。

これらの企画や制作は、リーダー（児童書担当）を中心に複数の職員で行い、元新聞記者の館長から“ネタ”の提供を受けることもあります。

どの展示も、市史や学校の記念誌などの地域資料をはじめ、各学校のホームページや気象庁のデータベース等を調査し、学芸員や留萌開発建設部、旭川地方気象台等からも写真やデータの提供を受けています。準備には1～2か月をかけ、視覚的にわかりやすいようグラフや写真を取り入れ、優しい説明文で低学年でも読めるよう工夫しています。

図書館では、フェイスブックや地元新聞に記事を依頼してPRも積極的です。

「留萌について興味関心を持ってもらうことはもちろん、「ふむふむのコーナー」をとおして子どもたちの考える、調べる力が育ってくれればと願っています。」と思いを語っていただきました。



「るもいのいきものたち」全体。下に関連の本を展示



「るもいの小学校」配置図



「るもいの気温」



「防災とるもい」防災マップ

(情報提供：市立留萌図書館 斎藤 亜由美)

Case 7 図書館へのアクセスポイント「郵便局図書コーナー」 松前町立図書館

松前町立図書館では、図書館へ来られない方へのサービスとして、町内 7 つの郵便局に本棚を設置し、蔵書の貸出・返却、予約リクエストの受付などを行っています。除籍本や不要となった寄贈本の再活用場所として郵便局と連携する例は他にもありますが、図書館の蔵書へのアクセスポイントとして郵便局と連携している事例について情報提供いただきました。



■ 取組に至った理由、きっかけ

松前町は海岸線沿いに横長の地形で、町立図書館まで一番遠い地域から車で 30 分以上の距離があるため、遠方に住む町民でも図書館サービスを受けられるように取組を始めました。

■ 本の選定や入れ替えの頻度など

毎月、郵便局 7 か所で 455 冊の本を入れ替えます。一般書が約 80 %。そのなかでも小説が 80%を占めています。児童書はほぼ絵本で約 20%です。小説は、できる限り新しい本や話題作などを入れ、同じ郵便局に短期間で同じ本が行かないよう配慮しています。

月 1 回各郵便局に赴き、棚の本を入れ替え、図書借入申込書、返却 BOX の本、予約リクエスト用紙の回収を行っています。

■ 本の借り方・返し方

コーナーは無人で運営しており、貸出は、「図書借入申込書」に、利用者が日付、利用者カード番号、本のタイトル等を記入して本を持ち出します。返却は返却 BOX に本を入れます。

借入申込書や返却 BOX の本を回収した後に、図書館システムで貸出や返却の処理を行います。

■ 利用状況（月の平均貸出冊数、貸出冊数に占める割合など）

令和 3 年度は郵便局図書コーナー全体で、月平均 61 冊の貸出があり、全貸出冊数における割合は 13.4%と、一定の利用があることが伺えます。

■ この取組への思い

「すべての町民に必要としている本、資料、情報を届けたい」と思い、その一助になればと取り組んでいます。郵便局図書コーナーの利用者はリピーターが多いです。更に多くの方に利用されるよう、利用方法を可能な限りシンプルにし、掲示などを分かりやすいものに変えるなど、知恵を絞って工夫しています。

本を借りる以外にも、本の返却スポットとしてもよく使われます。また、予約リクエストの箱も設置し、予約本の受取もできます。図書館まで行かなくても必要な本を受け取れる機能を詰め込んでいます。無人で運用できるのは小さな町の利点かなと考えて、気楽に利用できる雰囲気心掛けています。」



(情報提供：松前町立図書館 油野 桂子)

■ 特集:キーワードは連携・共同

○ オホーツク管内公共図書館協議会 遠紋ブロック共同事業「夏休み 鉄道展」

令和4年7月16日(土)~8月17日(水)の期間、遠紋ブロック(遠軽町・雄武町・興部町・佐呂間町・滝上町・紋別市・湧別町)の各図書館は、紋別市立博物館開館20周年記念事業「懐かしの名寄本線開通百年記念鉄道展」に併せて紋別市立図書館が開催した鉄道に関連した夏休み特別展をきっかけに、共同事業として「鉄道」をテーマに、次の事業名で図書やパネル等の展示を行いました。

図書館名	事業名	主な内容
遠軽町図書館	廃線になった名寄本線	名寄本線の特集コーナーを作り、鉄道関係の資料のほか、廃線当時の世の中の動き(全国・町内)についての広報誌、新聞、資料等の展示
雄武町図書館	おもいでの興浜南線	列車のヘッドマーク等、興浜南線に関する資料のほか、当時の駅や列車の写真を初公開。また、北海道の国鉄に関する図書の展示
興部町立図書館	名寄本線・興部南線	北海道の廃線、鉄道に関する資料や広報、新聞記事や電車絵本等の資料展示。DVD「声が聞こえる 名寄本線・最後の冬」の上映。幼児・小学生を対象とした工作教室「電車作り」の開催
佐呂間町立図書館	北海道みんなをつなぐ鉄道	鉄道に関する本をはじめ、湧網線関連の写真パネルの展示と鉄道記念館(交通公園)の紹介、JR北海道のパンフレットやチラシの配布
滝上町図書館	よみがえる渚滑線	昭和の鉄道や駅の写真50枚と渚滑線が開通した当時の貴重な古地図や絵はがき、廃線時の資料や関連書籍等の展示、映像上映
紋別市立図書館	鉄道・てつどう展	紋別市立博物館20周年記念のお祝いと図書館所蔵の名寄本線関係資料、子どもたちが大好きな乗物絵本等の展示
湧別町中湧別図書館 湧別町湧別図書館	鉄道展	名寄本線に関する図書や新聞記事、鉄道開通150年を記念して鉄道に関する図書等の展示

また、遠紋ブロック8館の鉄道展をめぐる「スタンプラリー」も開催、紋別市出身の絵本作家・堀川真さんが今回の鉄道展のために描き下ろした「ぬり絵」も配布しました。

各図書館では、「スタンプラリーにより、近隣の図書館にも興味を持っていただいた。」「懐かしいといった声が多く寄せられた。」「あらためて町や鉄道の資料や歴史を知る機会となった。」「町民の方が思い出話をするきっかけとなった。」等の成果を共有しました。

ちなみに、遠紋ブロックは、今回の鉄道展に限らず、定例の『絵本原画巡回展』や共同研究テーマによる職員研修や視察研修など、7市町の連携は継続しており、図書館サービスの向上と司書のスキルアップに努めています。

(情報提供:紋別市立図書館 平野 由香)



▲ 絵は、「ぬり絵」として配布した堀川真さんの作品

○ 繋がる・繋ぐ図書館の輪～ゾロリが図書館にやってきた！

(図書館リレー展示 小樽→滝川→栗山→苫小牧)

読書やスポーツなど様々な秋がありますが、栗山町図書館はゾロリの秋となりました。

ゾロリの秋とは！？ポプラ社から刊行されている「かいけつゾロリシリーズ」の大スター・ゾロリとイノシシの兄弟イシシとノシシのパネルが図書館のあちこちを占拠したのです。子どもたちは大きなゾロリパネルに興味津々。「写真撮りたい～」「たくさん借りて行こう！」と大賑わいでした。



きっかけは市立小樽図書館の鈴木館長からの「ポプラ社のパネル展示をするので栗山町でもどうですか？」というお声がけです。もちろん返事は「はい！やりたいです！」と即答しました。

実はこの企画、小樽市で開催された後、滝川市で開催され、その後は栗山町、苫小牧市とリレー形式でゾロリが道内を飛び回るものだったのです。

栗山町図書館では、「小樽発道内図書館リレー展示ポプラ社の本大集合！～怪盗ルパンからかいけつゾロ

りまで」と題して、10月1日から23日まで開催しました。

鈴木館長自らお持ちいただいた展示物のダンボールを開くと、そこにはポプラ社の起業経緯や、年代別に当時流行した本の表紙やポプラ新書の意義など、ポプラ社のすべてがぎっしり。さらに、ポプラ新書の『一万円選書』や「いわた書店(砂川市)のあゆみ」のほか、小樽市が開催した際に制作した展示物や滝川市が制作した人気シリーズの紹介ポップなどがたくさん詰まっていました。それぞれの図書館が創意工夫で作られた大作たちを目に、「これはしっかり展示をしなければ！」という思いと「こちらも負けてられない！」という気持ちが沸いてきました。



これらの展示物やポップに合わせて、蔵書からポプラ社の『かいけつゾロリ』、『グレッグのダメ日記』、『おしりたんてい』『ズッコケ三人組』などのシリーズを並べ、道立図書館からもポプラ社の児童書を借用して展示を構成しました。

展示は、当館の入口横にあるスペース「町民ギャラリー」を活用して、あれもこれもとみっちり飾ってはじめてましたが、期間中にお越しいただいた鈴木館長の「もっと館内中にあつたらいい」というアドバイスを受け、レイアウトを大幅に変更し、入口から町民ギャラリー、絵本コーナーへの導線を滝川市が制作した「足跡マーク」で示すなど、四苦八苦しながら館内全体に児童書を配置した大がかりな展示となりました。いろんな方々の知恵とアイデアを借り、今までとは違った視点で展示を構成することができ、とても勉強になりました。

市立小樽図書館のお声がけで始まった今回の展示は道内各地を巡り、それぞれの図書館で少しずつ創作物が増え、さらに別の図書館へとバトンを繋いでいきます。アイデアを出し合いながら切磋琢磨し高め合っていく“繋がる展示会”。これからも図書館の繋がりを大事にして、北海道全体の図書館活動を盛り上げられたら素敵だな！と感じています。(寄稿：栗山町図書館 野澤 香)

○ 小さな町同士で繋がる（北空知3町 – 秩父別町・北竜町・沼田町– 合同司書会）

沼田町・北竜町・秩父別町の3町では、「北空知3町合同司書会」を行っています。

3町連携は、2013年から行っている絵本作家のおはなし会が始まりでした。同じくらいの規模の小さな町で集まって絵本作家を呼びたいという沼田町からの声に北竜町と秩父別町が賛同してくれたのがきっかけです。



▲ 2019年度の絵本作家のおはなし会の様子（絵本作家 かとうまふみさん）

絵本作家のおはなし会を始めた当初は、「司書会」といったことはせず3町合同で企画運営するのみでした。事業を始めたときから絵本作家のおはなし会の打ち合わせや反省会を行っていましたので、もっと情報交換したり、交流できたらいいなという考えが芽生え、2016年度からは、打ち合わせを含めた「司書会」を行うようになりました。

第1回目は沼田町・北竜町・秩父別町のほかに妹背牛町も加わりそれぞれの町で開催したイベントや工作の事例などを紹介しました。第1回目は手探り状態でしたが、一度「司書会」を行ったことで他町の図書館職員同士の情報交換や交流は必要だと感じたことは収穫でした。

2回目以降は、現在の「北空知3町合同司書会」という形になり、図書館を運営していく中で出てきた疑問などを中心に協議をしています。3町の図書館の職員体制はどこもぎりぎりで、研修会などに参加する機会も多くないため、他の図書館の職員と話す機会は貴重で、話が尽きず終了時間をオーバーしてしまうこともしばしば……。

「司書会」は回を重ねて、ここ数年は道立図書館の市町村活動支援事業で道立図書館も参加いただくようになりました。今年度、道立図書館には、本のコピーや郵送の対応について・電子図書館についてなどをお聞きしました。毎回似たような質問が出てしまっていますが、道立図書館の方が各図書館の状況などを聞きながら丁寧に助言くださり助かっています。

図書館を運営していくなかで悩むことも多いですが3町の職員で相談したり、互いに助け合いながら、これからも連携事業含め司書会を継続して、3町の連携をより深めていきたいと思っています。

（寄稿：沼田町図書館 菊池 詩織）

○ なかそら net 紹介 (なかそらち図書館ネットワーク)

中空知地区の5市5町で構成されている「なかそらち図書館ネットワーク推進事業実行委員会」は、平成20(2008)年度に中空知を拠点とした魅力ある図書館づくりと豊かな子ども文化を築くことを目的に活動を始めました。その前身として、構成市町を同じくして行われていた「本の読み聞かせ活動人材育成事業」が展開されており、その事業内容を引き継いでいます。そもそも中空知では圏域事業を共同で処理するために、昭和45年11月9日に「中空知広域市町村圏組合」を設立し、構成市町からの輪番により事務局に職員を派遣し広域行政事業を行っていました。当実行委員会もその団体を母体とし、活動に関する予算等もそちらから支出されています。

初期の活動ではその名のとおり「人材育成」を中心に考え、ボランティア育成講座などを行っていましたが、参加者の居住地が偏っていたり毎回同じような顔ぶれのみが参加していたりなど、限界を感じることも多く、その後「人材育成」は大きな目的として失うことなく、かつもう少し幅広い活動も…と考え、会の知名度を上げ、多くの方に活動を知ってもらうためにもと絵本作家講演会やおはなしカーニバルといった様々な層に楽しんでもらえるイベントも行うようになりました。



▲ネットワークのキャラクター「なかそらちゃん」

絵本作家講演会は、年ごとに開催地を変えながら、直近では武田美穂さん、宮西達也さん、長谷川義史さんなどの人気作家をお呼びして好評を博しました。しかし、令和2年からの所謂コロナ禍で開催中止を余儀なくされ、代替事業として展示可能なスペースや施設を持つ市町のうち3市町を巡回させる形で絵本原画展を行っています。令和2年度に石川えり子さん、同3年度にMAYA MAXXさんの原画展示を行い、今年度はシゲリカツヒコさんの作品を新十津川町、芦別市、滝川市で巡回展示します。

令和4年度なかそらち図書館ネットワーク推進事業
おはなしカーニバル
とき **11月26日(土) 13:00~15:00**
(開場12:30)
ところ **浦臼町 農村センター**
住所: 浦臼町字浦臼内184番地の61
電話: 0125-67-3790
入場無料
★ボランティアによるよみきかせ
大型絵本、パネルシアター、
てあそびなど 楽しいことが
もりだくさん!!
★クイズ
みんなでクイズにちょうせん!
ぜんぶ せいかいできた子には
ささやかな プレゼントもあるかも!
パフォーマー
ゲーム 特別公演

おはなしカーニバルは、滝川市の國學院大學北海道短期大学部、幼児・児童教育科 松村准教授(当時:現在は退任)にご尽力いただき、同学の協力を得て平成20年から令和元年まで会場として使用させていただいたほか、学生たちとは、協同事業として共にイベントを作り上げてきました。よみきかせ、手遊びやダンス、工作やゲームなど学生たちそれぞれが工夫を凝らし組み上げたプログラムはイベント終了後に回答していただいた参加者アンケート結果でも、非常に楽しんでもらえていたことが窺え、「毎年来場するのが楽しみ」という意見をいただくことがあるほど人気の高いイベントでした。

こちら令和2年度からは中止せざるを得なくなり、同年からの3か年計画で「なかそらネットのおすすめ本」として、初年度は幼児～小学低学年、2年目は小学高学年、最後の年となる今年度は中学生向けのおすすめ本を、各市町の担当者が2冊ずつ選書しそれをまとめてリスト化、選ばれた本をなかそらネットの事業費で代金を負担し各市町で全冊購入、時期を決めて展示を行っています。

もっとも、おはなしカーニバルは今年度 11 月 26 日(土)に再開します。今回は國學院大學を会場として使用できないため、浦臼町での開催となりますが、2 年ぶりかつ会場の変更、そして未だ感染症の脅威は完全に消えてはいないという条件のなかでどういう結果が出せるのかは未知数ですが、参加してくれた方が「楽しかった！」と言って帰宅できるようなイベントとなるよう、準備を進めているところです。

令和 2 年度からは各市町担当者が集まったの会議すら開催が難しいなか、それでも何もしないわけにはいかないという思いで知恵を出し合い、形になるものを残せているのは喜ばしいことです。

過去には、ほかにも朗読講座や絵本・紙芝居のよみきかせ講座など人材育成につなげるための様々な事業も行っています。いずれも、会場となるまちを中心に、実行委員会メンバー全員が協力し合い準備・運営に当たってきました。

事業そのものは終了後に適宜開く会議で成果を確認し反省したうえで次に活かすよう心掛けています。しかし課題も多く、元々は「人材育成」が主で、認知度を上げるため、また育成につなげるための人材掘り起しとして開始したはずの子ども(親子)向けイベント事業に、近年は寄りすぎているのでは？という声があがったりもしています。肝心の人材が目に見えて増えている実感が持てていないのが最大の課題と言えます。いかに子どもと本をつなぐための人材を増やし育成していけるか、今後、実行委員会としてどういう方向性で事業を展開していくべきなのかなど、乗り越えるべき課題も多くはありますが、それでもやはり広域協力で事業を行っていく意義は大きいと思っています。

10 市町が共同で事業を行うにあたり、当然ながらメリットもデメリットもあります。メリットとしては、ひとつのまち単独では開催が難しい事業、例えば絵本作家講演会などが開催可能となることがまず挙げられます。予算面もそうですが、小さなまちでは人材確保も難しいので、間違いなくその両面で協力が得られるこのような事業は非常にありがたいと感じています。また、それぞれのまちでの仕事の行い方、考え方に違いがあり、事業に対して自分のまちでは持ち得ないノウハウを提示してもらえることも大きなメリットです。まちという枠を超えたつながりが持てることで見えてくる新たな視点もそのひとつです。

またデメリットを挙げると、中空知地域の各市町から集まり事業を行っているため、会議を開く、各担当者との調整をとるといったことがスムーズにはいかないという点があります。電話・メール等を活用して補ってはいますが、細かい部分を密に打ち合わせとはいかず、苦勞することも多いです。図書・読書推進関連の事業であるため、必然的に図書館が設置されているまちの担当者が中心になります。事業に関わる業務や道具の調達などはなるべく分散担当するようにはしていますが、どうしても一部のまちに業務の比重が偏ってしまう傾向も否めないということもあります。

この実行委員会は令和 2 年度からの 3 年計画の終了が近づいています。令和 6 年度以降については、現在、次期計画(案)の策定に向けた事業内容等を協議中で継続していけるかはまだ未定です。しかし、実行委員会としては今後も継続する意向で、先に書いたような課題にも取り組み、新たなイベントの展開、人材の育成にも励んでいきたいと考えています。

(寄稿：奈井江町図書館 栗原 真実)

■ 令和4年度全道図書館新任職員研修会報告

9月8日、9日に行われた本研修は、道立図書館を会場とし、42名に受講いただきました。



本研修は、道内公立図書館、公民館図書室等に勤務する新任職員の方々に対し、図書館活動に必要な基本理念の理解、基礎知識の習得を図ることをねらいとし、例年行っている研修です。コロナ禍の影響により、2020年は会場の変更、2021年はオンラインでの開催を経て、3年ぶりに道立図書館を会場として開催することが出来ました。

【1日目】

講義「公立図書館概論」(北海道立図書館利用サービス部北方資料室長 中田 こずえ)

講義「資料収集」(日高町立門別図書館郷土資料館主事(司書) 島田 菜々)

情報交換「お互いの図書館を知ろう」(北海道立図書館総務企画部企画支援課主任 畑中 ゆい)



【情報交換】の時間では7グループに分かれ、展示やイベント、利用者サービスなどについて、情報交換を行いました。

アンケートでは「他館の取り組みを知ることが出来たり、色々な方との交流が出来て良かった」との声が多くありました。

【2日目】

講義「著作権法 入門編」(北海道立図書館利用サービス部一般資料室資料整備課主任 中野 瑛介)

講義・演習「速効！児童サービスここだけは！」(市立士別図書館主任主事(司書) 柴山 智衣)

講義「カウンターの仕事」(新ひだか町図書館三石分館主査(司書) 新山 恵美子)

講義・施設見学「道立図書館活用術」

(北海道立図書館利用サービス部一般資料室一般資料サービス課主任 木村 啓

北方資料室北方資料サービス課主査 原田 英明)



隣席の人とペアになっての絵本の読み聞かせの様子

◀【児童サービス】

【施設見学】▶

3グループに分かれ、道立図書館をご案内しました



■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート

【運営相談・派遣】広尾町立図書館「読みたい本がすぐ見つかるように」

8月24日(水)、25日(木)の2日間、運営相談・派遣として広尾町立図書館に伺いました。

今回、求められた相談事項は、1) 資料の収集と除籍 2) YA・ティーンズ層の利用促進 3) 図書館ボランティアの活性化 でした。各々の事項について、あらかじめ作成した資料により助言・情報提供を行い、参考となる事例を紹介しました。

また、広尾町立図書館の過去5年間の実績について、人口が同規模の町の図書館との比較データを提示し、今後の図書館サービスのあり方について共に考えました。さらに電算化に伴い排架やレイアウトが大きく変更された館内を見学し、気づいた点をいくつか助言しました。

広尾町立図書館から事後レポートと Before & After の報告をいただきました。



広尾町立図書館は児童福祉会館の1階に併設されており、来年で図書館設立40周年を迎えます。令和3年度に図書館システムや図書除菌機を導入したことで、業務を円滑に進めることができるようになり、これまで時間をかけることのできなかった作業に取り組むことができるようになりました。そうした中で共通認識として職員間で相談、引継ぎをしていたものの、明文化されていない部分があり今回運営相談を依頼させていただきました。依頼したのは、選書基準や除籍基準の決め方、若い人に図書館を利用してもらうにはどうしたらよいか、ボランティアの担い手確保についての3点です。

選書、除籍基準については他館の事例などをご紹介いただきながら、どんな図書を残したいかを明確化させることや、複写・レファレンスの基準も決めておく必要があると教えていただきました。若い人に図書館を利用してもらうには、図書館が楽しい場所と認識してもらうように企画や展示コーナーを充実させることから始めてみては、との助言をいただきました。

中学校の職場体験や高校のインターンシップで対象年齢の当事者にポップを作成してもらおうと考えております。そして、ボランティアの担い手確保については、まずはボランティア活動をするにあたっての心得、設置要綱をしっかりと決めてから町広報やホームページ等で募集するのがよいと教えていただきました。

上記以外にも館内について様々な意見をいただきました。当館はインデックスが無い棚が多かったため、どこに何の本があるか一目見ただけでは分からない、との指摘をいただき、絵本コーナーの本棚に細かい表示をつけるようにしました。作成後、利用者の方はもちろん職員にも配架する際に分かりやすいと好評です。

「あたらしいえほん」のコーナーでは、年齢・学年ごとに本を並べるようにしたので自分またはお子さんに合った絵本を選べるのではないかと思います。他にも、ホームページや広報をうまく活用し図書館行事を発信していけるよう少しずつではありますが改善を続けています。初めて図書館を利用する方が自分の読みたい本を見つけることができるようなわくわくする図書館を目指していきたいです。

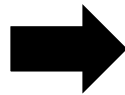
(寄稿：広尾町立図書館 梶谷 遥)

広尾町立図書館 Before & After

【Before】



【After】



絵本のタイトルの頭文字で
「あいうえお順」に並べています。

【運営相談・派遣】幌加内町 絵本の読み聞かせ講座

講義「あなたにもできる！読み聞かせ～トレーニング編、発表会～」

読書ボランティア育成の足がかりとして、絵本の読み聞かせ講習会を行いました。昨年度の「入門編」「実践編」に引き続き、「トレーニング編」「発表会」と題し、6月、10月に行いました。トレーニング編では腹式呼吸の練習方法や、正しい姿勢での声の出し方、自分の声がどのように他人に聞こえているかなど「声」に関する講義、発表会では今後本格的にボランティア活動を始めるうえでの具体的な練習方法や、おはなし会のプログラムの組み方などを確認しながら、参加者それぞれが選んだ1冊の絵本を発表会という形で読み合いました。参加された皆さんが活躍される日を楽しみにしています！



▲ 参加者の方々による発表会の様子

ニセコ町の小学校

夏休み中の8月9日にニセコ町の小学校を訪問し、校内に複数ある図書コーナーの環境改善について運営相談を行いました。

環境改善の効果等について講義・事例紹介を行った後は、学校の図書担当の先生とニセコ町学習交流センター「あそぶっく」職員、道立図書館それぞれの目線で「児童の利用に合わせた配架」や「分類表示の整理方法」など

について実際の本棚を見ながら考え、今後取り組んでいくことを確認しました。

今回の運営相談のあと、学校の先生が直接「あそぶっく」を訪ねてくるなど、連携がさらに進む機会となったと伺っています。



大空町の中学校

9月上旬に大空町の中学校を訪問し、学校図書館内のレイアウトやディスプレイ等について運営相談を行いました。生徒手作りの展示や掲示物がすでに多くありましたが、廊下を通りかかっただけの生徒や先生にもそれらの展

示や新刊図書が目に入るようにと、今後の「利用増・貸出増」に向けて改善ポイントを話し合いました。

学校に近い東藻琴図書館には、生徒たちも授業の一環で訪問しており、国語の授業で作成したPOPを展示するなどの連携も行われています。今回の運営相談では、学校図書館の環境改善にとどまらず、図書の購入や貸借にあたって、さらに町立図書館と連携・協力しながら進めることなども参加の職員間で話題とすることができました。

訪問時は、学校ブックフェスティバル（ブックギャラリー）の開催期間でもありました。コロナ禍に配慮してしかけ絵本は廊下に展示。生徒たちの感想やおすすめ文は、付箋に書いて本を置いた机に貼るという工夫がされていました（写真）。



道内図書館キャラクター紹介！

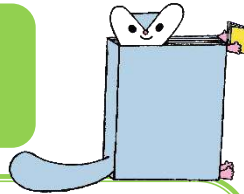
Vol. 4

HP や SNS での広報活動のほか、オリジナルグッズの作成などにも力を発揮する図書館キャラクター。道内各地域で活躍中の、個性豊かなキャラクターたちを紹介します！（説明文・キャラクター画像は各図書館からご提供いただきました。ありがとうございます。）



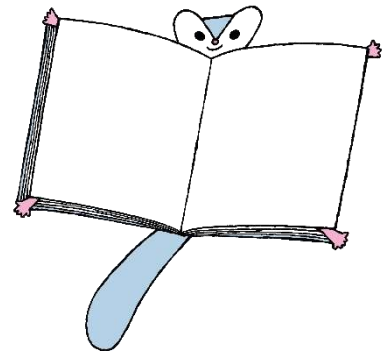
トモビー

美幌町図書館



開館 70 周年を記念し、画家・絵本作家の松田奈那子さんに描いていただいた公式キャラクター。名前は公募した 313 点の中から決まりました。由来は「図書館のモンガ at 美幌町」。

好きなものはイタヤカエデのツララ、趣味は冒険！



としょかんふれんず

根室市図書館

カモメのガビー

図書館の屋根をねじろにしている。
スポーツ新聞が好き。



根室に生息するいきものや、図書館の近くに実際に住んでいる猫、かもめなどをモチーフに令和 2 年に誕生（職員が作成）。

年 4 回発行する「こどもしんぶん」の 4 コマ漫画のほか、しおり・シール、ぬりえなど様々な場面で活躍してくれています。



シマエナガのニムオロ

本が大好きな女の子。
お菓子作りの本をよく借りる。



シマフクロウのエカシ

森一番の知識の持ち主。
図書館の常連で、週 3 回は通う。



くろねこのルイカ

図書館の近くをなわばりにしている。
雑誌の最新号は必ず予約！

道内の「図書館キャラクター」情報を

ぜひお寄せください。自薦・他薦問わず大募集中です！

求む！図書館キャラクター情報

■ お知らせ

滝川市立図書館発

「一緒に取り組んでみませんか？～BOOKセラピー～」

「BOOKセラピー」とはお悩みの症状に効く本（薬袋に書名を見えないようにして本を入れる）を展示する取組です。平成29年度に当館で実施した際、とても好評で期間を延長するほどでした。この取り組みをご紹介させていただく機会があったのですが、「やってみたいけど、大変そうで二の足を踏んでしまう。」というお声をいただきました。少ない人員で運営されている図書館や、1人で学校図書館を切り盛りされているところも少なくありません。できるだけ負担を減らすために、展示に係る薬袋や表示などのデータや各館で選書された図書リストを送付いただき共有したらハードルが下がるのではないだろうかと考え、平成30年度に「**全国BOOKセラピーネットワーク**」を立ち上げ、道内はもとより南は鹿児島まで、公共図書館・学校図書館合わせて35館にご参加いただきました。



※ 小学校の学校図書館からご要望があったため、ちびっこバージョンも用意しました！！

先月、空知管内高等学校図書館教育研究会と学校図書館担当職員講習会でお話しをさせていただく機会を与えてもらった際に、「BOOKセラピー」展示を紹介いたしました。データを提供しますとお伝えしたところ、思った以上にご要望があったため、当館でも久しぶりに来年1月末～3月末の期間で展示を行うこととしました。もし、「BOOKセラピー」にご興味のある図書館（室）がございましたら、データを送付しますので一緒に取り組んでみませんか？期間や規模はそれぞれの図書館（室）でご都合に合わせて設定していただいで大丈夫です。

全国各地の図書館（室）や学校図書館等が連携しアイデアや情報を共有することで、業務の省力化を図りながら、より活発で充実した読書活動が推進されたら、こんなに嬉しいことはありません。自治体や館種を越えて、「一緒に取り組んでみませんか？」と気軽に声をかけ合える関係性が生まれたら素敵だなと切に願っています。 （寄稿：滝川市立図書館 深村 清美）

電子図書館の導入数は 13 市町

道内で電子図書館サービスを導入した自治体は 13 市町となりました（令和 4 年 11 月 1 日現在 企画支援課調べ）。道立図書館も、今年 4 月から紀伊國屋書店学術電子図書館サービス「KinoDen」を導入しています。

電子書籍貸出し(電子図書館)システム導入状況

R4.11.1現在

自治体、図書館名	導入時期	導入システムの名称
1 栗山町図書館	R3.8.1	Over Drive Japan (メディアドゥ)
2 札幌市中央図書館	H26年度 サービス開始	TRC-DL (図書館流通センター)
3 恵庭市立図書館	R3.4	LibrariE & TRC-DL (図書館流通センター)
4 余市町図書館	R3.2	Over Drive Japan (メディアドゥ)
5 倶知安町教育委員会	R4.10.28	TRC-DL (図書館流通センター)
6 苫小牧市立中央図書館	H26.10.29 貸出開始	LibrariE & TRC-DL (図書館流通センター)
7 登別市立図書館	R3.3.2	TRC-DL (図書館流通センター)
8 天塩町教育委員会	H29.4	Over Drive Japan (メディアドゥ)
9 北見市立中央図書館	H27年度	TRC-DL (図書館流通センター)
10 網走市立図書館	R2.12.15	Over Drive Japan (メディアドゥ)
11 紋別市立図書館	R3.10.1	LibrariE & TRC-DL (図書館流通センター)
12 帯広市図書館	R3.4.1	Over Drive Japan (メディアドゥ)
13 厚岸情報館	R4.11.1	Over Drive Japan (メディアドゥ)

電子出版制作・流通協議会によると、全国の公共図書館で電子図書館サービスを実施している自治体数（都道府県を含む）は、436（24.4%）です（2022 年 10 月 1 日現在）。ちなみに公共図書館での導入が始まった 2012（平成 24）年当時は、大阪市や堺市、徳島市などごく一部の図書館に限られ、全国でも 10 館に満たない状況でした。

電子図書館は、利用者にとって 365 日 24 時間利用でき、検索・貸出・閲覧などが、時間と場所にとらわれず出来るので、利便性は大幅に向上します。

サービスを提供する図書館にとっても、物理的な在庫管理のほか、貴重資料の汚破損・紛失のリスクも解消されます。

また、文字の拡大表示や音声読み上げといった機能は、高齢者や障がい者へのサービスを側面から支援することにもつながります。

一方では、図書館向けに提供されているコンテンツや一度に利用できる数には制限があるほか、導入コストや維持管理に係る予算確保が困難な点や、著作権や肖像権などの法整備など課題も指摘されていますが、これらのメリット・デメリットを勘案しながら、今後も普及が見込まれる電子図書館サービスをコロナ禍によりニーズが高まる「非来館型サービス」のひとつとして検討してみたいかがですか。

次の Web サイトでは電子図書館に関連する情報が提供されています。

まずは、電子図書館について正しく理解し、最新情報を入手することから始めてみましょう。

- 電子出版制作・流通協議会 <https://aebs.or.jp/>
- 日本電子出版協会 電子図書館 https://www.jepa.or.jp/ebookpedia/201703_3486/
- TRC 図書館流通センター 電子図書館サービス <https://www.trc.co.jp/solution/trcdl.html>
- Over Drive Japan 図書館を、もっと身近に メディアドゥが提案する電子図書館サービス <https://overdrivejapan.jp/>
- JDLS 日本電子図書館サービス <https://www.jdls.co.jp/>
- 紀伊國屋 学術電子図書館 KinoDen <https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/index.html>

学校図書館担当職員講習が終了（北海道教育庁社会教育課）

北海道教育庁社会教育課は、今年度から開始した「学校図書館担当職員講習」の全講習を終了しました。この講習は、学校司書の配置促進に寄与し、道内の学校図書館を担当する職員等の資質向上を図ることを目的に、対象を、学校司書、事務職員、実習助手等の学校図書館を担当する職員等のほか、図書館ボランティアやPTA等とし、7月26日から10月27日の期間、同時双方向型のオンラインで実施しました。

講習は、5つのカテゴリーに分け、それぞれを内容・テーマにより各1時間のコマ（科目）を設け、講師を大学教員、全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー、北海道学校図書館協会や現職の司書教諭、学校司書、公立図書館司書等に依頼し、週1回2時間のペースで開講しました。3か月にわたる長期間でしたが、全道から162名が受講しました（若干名の公立図書館司書、教育委員会職員を含む）。

学校司書は、「学校図書館の職務のうち、主に学校図書館の整備及び奉仕的職務を担当します。メディアの専門家として、学校図書館メディアの発注・受入から分類・配架等の組織化、学校図書館メディアの提供、情報サービス、読書案内、広報活動など、学校図書館メディアと児童生徒・教職員をつなぎます。また、学校図書館を活用する学習活動が円滑に行われるように、教諭や司書教諭と協力のうえ学習の支援も行います」（全国学校図書館協議会のHPより引用）。

受講者からは、「基礎的な事項を学ぶ機会があって良かった」、「具体的な事例が聞いて大変参考になった」などの声が寄せられました。当日受講できなかった方には、Google Classroom内で後日受講できるようオンデマンドで令和5年1月末まで配信します。修了者には道教委独自の講習修了認定を行います。なお、同講習は来年度も実施する予定です。

令和4年度学校図書館担当職員講習の概要

講習名	内容・テーマ	講師
I 学校図書館基礎講習	1 学校図書館の理念と教育的意義	放送大学客員教授 堀川照代
	2 教育行政と学校図書館	全国学校図書館協議会
	3 学校図書館の経営（人、資料、予算、評価等）	学校図書館スーパーバイザー 野村邦重
	4 学校図書館の施設・設備	学校図書館スーパーバイザー 佐藤敬子
	5 学校図書館メディアの選択と管理、提供	学校図書館スーパーバイザー 大久保雅人
	6 学校図書館活動	学校図書館スーパーバイザー 佐藤敬子
II 図書館資料・情報の管理と活用講習	1 情報資源の種類と特質 資料の受入・除籍・保存・管理	全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 大久保雅人
	2 コレクション形成の理論と方法①	北海道学校図書館協会 選定部長 山本裕子
	3 コレクション形成の理論と方法②	北海道学校図書館協会 選定部長 山本裕子
	4 情報技術と現代社会 情報資源の発達と図書館サービス 図書館業務システムのしくみ	藤女子大学 准教授 平井孝典
III 学校図書館担当職員が知っておきたい学校教育	1 学校教育の意義と目標 関係法規 教育課程の意義と学習指導要領、教科書 教育方法・学習形態の諸類型	北海道教育庁生涯学習推進局 社会教育課主査 市村慈規
	2 児童生徒の心身の発達と学習過程	北海道教育大学札幌校 教授 戸田まり
	3 特別支援教育の現状と課題	専修大学 教授 野口武悟
	4 現代の学校と地域課題	北海道教育庁生涯学習推進局 社会教育課主査 佐々木直人
IV 学校図書館サービス力向上講習	1 学校図書館サービスの考え方と構造、運営	全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 野村邦重
	2 学校図書館の環境整備①（除架・除籍、補修）	北海道立図書館 企画支援課長 西岡祐子
	3 学校図書館の環境整備②（展示・掲示） 広報・渉外活動	札幌市立栄南中学校・栄町中学校 学校司書 児玉優子
	4 ガイダンス、レファレンス①	北海道学校図書館協会 研究部 新田裕子
	5 レファレンス②	北海道学校図書館協会 研究部 新田裕子
	6 児童生徒への読書支援・学習支援、教職員への支援	札幌市立手稲中学校・稲積中学校 学校司書 浅村麻姫子
V 学習指導と読書指導	1 読書の意義と目的 「子どもの読書活動」の推進	札幌市立北郷小学校 司書教諭 山田佳子
	2 発達段階や個に応じた図書館メディアの選択 学校図書館メディア活用能力の育成	札幌市立手稲中学校・稲積中学校 学校司書 浅村麻姫子
	3 子どもの本の理解・評価① 幼児～小学生	絵本屋南風書店 店主 JPIIC読書アドバイザー 出町南
	4 子どもの本の理解・評価② 中学生～高校生	北海道学校図書館協会 選定部長 山本裕子
	5 児童生徒と本をつなぐ方法① さまざまな方法（読み聞かせ、ブックトーク）	この本だいすきの会帯支支部 沼田陽子
	6 児童生徒と本をつなぐ方法② さまざまな方法（地域とつながる読書活動）	滝川市立図書館 館長 深村清美
	7 児童生徒と本をつなぐ方法③ 学習支援（図書リスト、パスファインダー）	全国学校図書館協議会
	8 児童生徒と本をつなぐ方法④ 学習支援、授業の実践事例	学校図書館スーパーバイザー 佐藤敬子

例えば…

こんなときは、お知らせください！



- ・施設を新築・改築します
- ・OPACを公開します
- ・電子図書館を導入します

編集後記

今号は、市町村の皆さんから多くの寄稿・情報提供をいただきました。ご多忙の中、ご協力いただき、心より感謝します。

特集では、連携・共同の取組事例を紹介しました。「お知らせ」では、滝川市立図書館から“BOOKセラピー”展示を呼びかけていただきました。

近隣の図書館が連携した事業展開や、ひとつの図書館のアイデアが他の図書館でも共有されると、より活発で充実した活動につながります。業務の省力化にもなりますね。もちろん住民の方々との協働も大事なキーワードです。

新型コロナウイルス感染は、いまだ収束の兆しが見えない中ですが、感染拡大防止を徹底しながら、道内の図書館活動を盛り上げていきたいところです。

企画支援課では、みなさんの図書館（室）の活動の情報を集めています。

好評だった事業、新しく始めた取組、ホームページのリニューアルなどなど、いつでも受け付けています。

『あけぼのつうしん』読後の感想も歓迎します。よろしくお願ひします。

shienka@library.pref.hokkaido.jp

※ 紙面の都合により、本文中の敬称を省略させていただきました。

あけぼのつうしん No. 81

発行日 令和4年（2022年）12月1日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <https://www.library.pref.hokkaido.jp/>